



例

年なら、そろそろ孫ちゃんの顔を見に娘夫婦の住む街へドライブがてら遊びに行こうか、と妻と話している頃ですが昨年外国へ引越してしまったので暫くは簡単に会うことができません。つまらなくてテンションだだ下がりです。

ならばせめてもの気持ちとして、孫ちゃんへ誕生日プレゼントを贈ることにしました。けど何せ外国です。どうしたらいいのかサッパリわからないので調べてみると、海外へ個人的な荷物を送るには郵便局の国際郵便を利用するしか方法はないようです。とはいえ迂闊なものを送れば税関で引っ掛かることくらいは無知な爺さんでも想像が付きますし、ちゃんと届くかなあ？と言う不安もあります。

あれこれ送って面倒なことになってもまずいで、娘を通じて孫ちゃんご所望の品を聞くと、あるキャラクターの玩具と絵本や塗り絵だったのでそれから大丈夫だろうと意を決して送る段取りを始めました。国際郵便のHPで調べるとEMSという航空便の速達みたいなのがあつて間違い無さそうなのでそれを利用することにしました。送り状を作成するには手書きは不可で、ネットから国際郵便マイページサービスに登録してフォーマットに従って進めなければなりません。

送り状の記載は基本英語ですが、かの国は英語圏ではないので宛先は相手国の文字に変換サイトを利用して直します。後は内容物の品名を一個ずつ英語で入力しますが、例えば玩具でもToyではだめで具体的な表記が求められます。これは国際郵便のHPに変換表があるので大抵事足りります。中身の値段が一定金額を越えると関税が掛かって厄介らしいので要注意です。そうやって入力を進めて、プリンターで送り状を出力します。後はプレゼントをガッチリ梱包して送り状と一緒に郵便局に持ち込んで終了。特に問題なく受け付けてもらえたので一安心。

さてそれからは連日追跡サービスで荷物の確認です。EMSは早いと聞いていたのに中々先に進みません。途中税関に差し戻されて吃驚仰天、何がダメだったのだろうかと気が気ではありません。ネットで調べるとその国では恣意的なことがよく起きるので運が悪かったと諦めてと書かれていましたが、そんな馬鹿な！

散々気を揉んだ挙句無事税関を通過、漸く九日目にして配達完了。ああ長かった。娘から、段ボール箱を空けてプレゼントを手にとって喜ぶ孫ちゃんの動画が送られてきました。手間を掛けて送った甲斐がありました、やれやれ。

老い老いに

木幡智恵美

41



焼け通信八年目も年が改まった。新しい日記帳の「はじめに」のページにこう書いている。「二十一世紀は科学の世紀？ ロボットが支配し、ハイテクの時代？ いや、二十世紀の反省の時代、失ったものを取り戻す時代、人間性を回復する時代だ。謙虚に振り返り、過ちをつぐない、妄想にかられない世紀を作りたいものだ」

K・Aさんは、『新世紀がやってきた』というタイトルで詩を寄せてくださっている。「七才の夏／アポロ十三号が月へ行つた／二十一世紀には宇宙旅行ができるかしら／小学生のわたしは思っていた／／十四歳の頃／ノストラダムスの大予言が話題になった／二十一世紀にはみんな死んでしまうのかしら／中学生の私は思っていた／／昨日のつづきは今日／今日のつづきは明日／二十世紀のつづきは二十一世紀／渋谷では カウントダウンに熱狂した若者が／ガラス屋根を突き破って落ち／世田谷では 一家殺人の犯人が捕まらないまま／二〇〇一年はやってきた／／二十一世紀がくれば幸せがくるとでもいうような／あまりの歓迎ぶりに／顔赤らめて 太陽はのぼり／世界じゅうに新世紀の夜明けを届けた／／人類は滅亡しませんでした／宇宙旅行は夢のまた夢／三十八歳の 不器用なわたしがここにいます／ところかまわずケータイでしゃべる／つながっていないと不安な人が増えました／いっしょにいても それぞれにメールをしてる／不思議な友だちカクケイが増えました／そのうちみんな 無言で画面ばかりを見つめ／生身の人間より機械のほうがほつとする なんて／言い出す時代になるのでしょうか／／新世紀おめでとう／あなたの顔を見て言いたいのです／わたしの声を聞いてください」

新世紀になって四半世紀が経った。失ったものを取り戻している？ 人間性が回復している？ 謙虚な振り返りができている？ K・Aさん詩の最後から二連目に書かれていることが普通になってしまった。そして、八十億を超える人類が我が物顔で地球を支配し、自然を変え、そのついで大災害が起きている。同類をも攻撃するという行動は激化し、各地で紛争が起きている。ノストラダムスの大予言は外れたとも言いきれない。詩の中の「二十一世紀にはみんな死んでしまうのかしら」が現実味を帯びてきている。

30代フリーター 2001年にアメリカで起きた9・11同時多発テロのあと、吉本隆明は「人間の『存在の倫理』」という言葉を使い、無関係の人びとの存在そのものを奪う無差別殺人はこの倫理に反すると批判した。パレスチナ人の存在そのものを否定するようなイスラエルのガザ攻撃はそれと同様の所業と言える。

年金生活者 「人間の『存在の倫理』」の意味を『超「戦争論」上』をもとに要約すると次のようになる。

(1) 自分がこの世に生まれてきたのは父母の性行為が原因であり、ずっとさかのぼれば、自然の偶然的な作用で生命が生まれたのだから、自分が生まれたことに自分は責任がないように見える。

(2) しかし、自分がこの世に存在してしまっただけということは地球上のどこかに場所を占め、生命を維持するために日々の糧を必要とすることだから、自分の存在それ自体が自己と他の存在に影響を与えてしまっている。

(3) それによって生じる責任は他人

には転嫁できないもので、自分で引き受けるしかなく、それは「人間の『存在の倫理』」と言うほかないものだ。30代 それが「殺すな」に帰着するのはなぜだ。

年金 (2) で言われているように、個人は生きている限り常に特定の場所を占めざるを得ない。言い換えれば、特定の場所しか占められない。まっぴらなくどの場所も占めるような、普遍的な存在の仕方はできない。

このことは個人は限定された存在、個別的な存在、普遍性を欠いた存在だということであり、その意味で「欠如」を抱えた存在ということができる。その「欠如」は母から離れる生誕時に生じる。

生まれる前の胎児は母胎の宇宙と一体であり、おのれが宇宙そのものでもある。宇宙的なユニバーサルな普遍的な存在であり、そこには個人も個別性も存在しない。この世界に生まれること、母から離れることは、その普遍性から脱落すること、個別的な存

在、限定された存在になること、つまり「欠如」を抱えた存在になることを意味する。

そのことはこの世に存在してしまっただけそれ自体によって生じる責任の取り方の方向を決める。「欠如」を抱えた個人が、やはり「欠如」を抱えた他の個人に対して出来ることがあるとすれば、互いの「欠如」を埋め合わせ、個別性を少しでも脱して普遍性に近づくことだ。それは相手の存在を否定しては不可能なことだ。

30代 埋め合わせるといっても、「欠如」は目に見えない。

年金 「欠如」は生理的なレベルでは「欲求」となってあらわれる。胎内にいるあいだは栄養がへその緒を介して自動的に供給される。母から離れてしまふと、それができなくなる。宇宙が宇宙自身に栄養を供給していたのが、生誕にともなう宇宙の分裂で絶たれてしまふ。栄養は求めない限り供給されなくなる。栄養を求める食欲という「欲求」が生まれる。

この「欠如」は、人間が母胎の宇宙に帰還できない以上、消すことができない。

30代 「欲望」は満たされることがない。

年金 どうしても満たそうとすれば、命を危険にさらすことになる。

「欲望」が個別的な対象への「要求」と普遍的な対象への「要求」の落差から生じるとしたら、「欲望」を満たすには、「要求」をどちらかに一本

化するしかない。言い換えれば、どちらか一方の「要求」を増増させ、他方の「要求」をゼロにするほかない。

「要求」の倍増とは「要求」の過剰化だ。個別的な対象への「要求」の過剰化は、例えば暴飲暴食であり、好色であり、乱費であり、それらはアルコール依存症、摂食障害、セックス依存症、恋愛依存症、買い物依存症につながる可能性がある。

普遍的な対象への「要求」を満たそうとすることは、対象に奉仕したり、対象と一体化しようとしたりすることだから、それが過剰化すれば、滅私奉公や社畜化、国家主義、党派への忠誠などとなり、集団への隷従、自由の放棄、あるいは逆に他者への攻撃の常習化、パワハラなどにつながる。

ラカンは「自らの欲望に忠実であれ」と言った。それは両極の「過剰」を排し、満たされない「欲望」を満たされない「欲望」のまま保持し続けること、それを生きる駆動力とすることと理解することができる。

生理的な「欲求」の対象を求める「要求」が個別的な対象への「要求」だとすれば、それを満たす存在そのものを求める「要求」は普遍的な対象への「要求」ということができる。だから、両者の間には落差がある。それは母からの分離によって生じた「欠如」のあらわれ方のひとつであり、言い換えれば、言葉によって構造化された「欠如」と言うことができる。それがラカンの想定した「欲望」を起動する。

ニュース日記 975
中村 礼治

欠如と倫理